

英語科学習指導案

日 時 平成 年 月 日 ()

児 童 3 年生

授業者

授業場

1 単元名 Lesson 11「自分のことをつたえよう」

2 単元の目標

英語で様々なキャラクターになりきって自己紹介をしたり聞いたりする活動を通して、“I live in ～.” や “I’m from ～.” といった自分のことを伝える表現を身に付け、それらを既習の表現と組み合わせて学級の友達に詳しく自己紹介をすることができる。また、相手に配慮して発表をしたり聞いたりする態度を身に付けることができる。

3 単元について

(1) 単元観

本単元の主なねらいは、友達同士でやりとりすることによって “I live in ～.” や “I’m from ～.” という新出の表現を身に付け、それらを用いて自己紹介をすることである。その際には、「友達について知らない情報を知りたい」「相手に自分のことを詳しく伝えたい」という思いから必要感をもち、新出の表現と既習の表現を組み合わせることで聞いたり伝えたりすることが重要である。

本単元は、住んでいる所を伝える “I live in ～.” と、出身を伝える “I’m from ～.” という新出の表現を用いて自己紹介をしたり聞いたりする活動を行うことから、既習の “I like ○○.” “I don’t like ○○.” “I have ○○.” などの表現と “I live in ～.” や “I’m from ～.” を組み合わせて自分のことを詳しく紹介することに適しており、それぞれの表現の有用性を改めて感じることができる。

児童が新出の表現を身に付けていくためには、全体で声を合わせてリズムにのって教師をまねたり、児童の住所を地図に記したカードを用いてゲームをしたりするなど、友達同士で関わり合いながら繰り返し表現を聞いたり言ったりできるよう、初めて知る表現や情報を楽しみながら学んでいくことが大切である。

また、本単元では、児童がこれまでの学習の積み重ねを実感することはもとより、相手に理解してもらうことや相手が話したことを理解したり初めて知ったりする喜びを感じたりすることが大切である。

(2) 目指す児童・生徒像

これまで児童は、身近な単語や簡単な表現に慣れ親しみ、各単元におけるやりとりの中でそれらを用いて伝えるという経験を重ねてきている。低学年では単語を中心に慣れ親しんでおり、中学年からは低学年で学習した単語と簡単な表現を組み合わせる経験を積み重ねている。

3 年生 5 月の単元「はじめまして」では、挨拶と自分の名前を伝えて自己紹介をする活動を 1 対 1 のやりとりで行った。本単元でも、自己紹介をする活動を行い、5 月の自己紹介における表現内容と今回の新出の表現と既習の表現を組み合わせる自己紹介の表現内容を比較し、その変容に気付くことから、表現の幅の広がりや、学習の積み重ねを実感させていきたい。

また、今回初めての一人対大勢の発表であることから、発表する側と聞く側がそれぞれ相手を配慮した

話し方・聞き方になることを目指していく。具体的には、大きな声ではっきりとゆっくり話すことや、頷いたり相槌などを打ったりしながら最後まで相手の話を聞くことを重視したい。

児童は、これまで各単元における新出の表現と、既習の表現を学習場面において組み合わせることで、言葉を拡充してきている。本単元においても、新出の表現と既習の表現を組み合わせることで目的や状況に応じた表現や伝え方を工夫することを通して、伝えたいことを積極的に表現しようとする態度を養うことを目指している。

(3) 指導観

先に述べたように、本単元では「学級の友達に自分のことを詳しく伝える」という目的や「一人で学級全体に自己紹介をする」という状況に応じて話す際に、新出の表現と既習の表現を組み合わせることによって自分のことを一層詳しく伝えられることに気づき、既習の表現を進んで用いて自己紹介しようとすることや、聞く際に相手の話していることに反応しながら理解しようとすることを目指している。

目的や状況を設定し、コミュニケーションに必要な態度や知識に気付かせ、言語化させる教師の関わりにより、話し手は聞き手に自分のことをわかってもらえるような発表にしたり、聞き手はこれまで知らなかった友達のことを知りたいという思いから、話し手に配慮して最後まで聞こうとしたりできるようにしていく。

本単元における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

本単元における英語科の「見方・考え方」とは、例えば“I don't like ○○.”などの既習の表現が自分のことを詳しく伝えるために用いることができるという「見方・考え方」である。このような「見方・考え方」を鍛えていくことにより、様々な既習の表現がどのような目的・場面・状況で用いることができる表現なのかを判断する力を高めていくことに繋がっていくと考える。

2時間目では、児童が自分のことを伝えている活動を見守り、その中から①提示したキャラクターのことを詳しく伝えていた“I like ○○.”といった既習の表現と“I live in ~.”や“I'm from ~.”といった新出の表現を用いて自分のことを詳しく伝えている様子と、②自ら想起した既習の表現と“I live in ~.”や“I'm from ~.”を組み合わせることで伝えていく様子を取り上げて①と②を比較させる。児童は対話を通して既習の表現に着目し、自分のことを詳しく伝えるという目的に立ち返ることにより、多様な既習の表現が新出の表現と組み合わせることで伝えられることに気付けるようにする。その後、「自分のことを詳しく伝えることができてきた」と話し手が感じ始めたタイミングで、聞き手にまわっていた児童に、「話し手は何と言っていたか」「特に伝えたかったことは何だろうか」などと問う。そのことから、話し手が伝えたいことが十分に理解できていないことに気づき、「どうしたら理解できるようになるのか」という聞き手の困り感を解決するための対話が生まれ、話し手は、相手の存在に着目し、伝えたい内容や構成（量や要旨など）を考え共有していく。

3時間目においては、学級全体に対して一人で自己紹介をすることから、一対一や小グループの中でのやりとりと何が違うのかロールプレイをすることによって態度面を比較し、話し手と聞き手の両方の態度に目を向けて考えられるようにする。

いずれの場面でも、「自分のことを伝えたい」「友達のことを理解したい」という思いを基に他者との対話を生み出し、「見方・考え方」を高めていく。

4 評価規準

| コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | 外国語表現の能力 | 外国語理解の能力 | 言語や文化についての知識・理解 |
|---|---|----------|--|
| <p>ア “I live in ～.” や “I’m from ～.” という新出の表現を教師の発音を進んで聞いたり、まねたりし、ゲーム等を通して進んで言おうとしている。</p> <p>イペアで互いに既習の表現を聞いたり、言ったりしようとしている。</p> <p>ウ相手に配慮して自分のことを詳しく伝えたり、友達の自己紹介を聞いたりしようとしている。</p> | <p>ア “I live in ～.” や “I’m from ～.” という新出の表現を友達に伝えている。</p> <p>イ新出の表現と既習の表現を組み合わせる自己紹介をしている。</p> | | <p>・ “I live in ～.” や “I’m from ～.” という新出の表現が自己紹介の時に用いることができる表現であることを理解している。</p> |

5 学びの過程のデザイン (全3時間)

| 一貫した主体的な学び | 学習活動 | 対話を生み出し見方・考え方を高める教師の関わり |
|--|---|---|
| <p>まねる・聞く・話す活動の構成を工夫し、友達と関わりながらゲーム等を繰り返し行うことにより、新出の表現を身に付けていけるようにする。</p> <p>自分や友達の住んでいる所や出身を伝えたり、聞いたりする活動によって、これまで知らなかった情報を得られることから、児童の「やってみよう」という思いを膨らませるようにする。</p> <p>自分の住んでいる所や出身を友達に伝えることができたかどうか、次にやってみようとは何かなどを振り返り、できたことへの実感や次時への意欲を高められるようにする。</p> <p>住んでいる所と出身が同じだと、それ以外の情報も得ないと相手のことがわからないことに気付かせ、相手のことをより詳しく知りたいという思いを引き出すようにする。</p> <p>ペアを変えて複数回自己紹介することにより、様々な相手の知らなかった情報を知りたいという思いを膨らませたり、表現することに自信をもったりできるようにする。</p> <p>新出の表現と既習の表現を組み合わせる自分のことを詳しく伝えられたかどうか、友達とやりとりをして思ったことは何か、何に気をつけて伝えるとよいのかなどを振り返ることによって、コミュニケーションを図る良さや表現の幅の広がりを実感できるようにする。</p> <p>話し手・聞き手の態度や表現内容の両方を振り返り、できたことを実感できるようにする。</p> | <p>1 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> キャラクタークイズによって新出の表現と出合い、意味を予想したり、使う場面を想像したりする。 キャラクターになりきって友達と自己紹介をし合う。 自分の出身や住んでいる所を示したカード使って友達と伝え合う。 関ア・知 <p>↓</p> <p>2 時間目 (本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> キャラクターの住んでいる所や出身以外に伝えられる情報を既習の表現を用いて増やす。 新出の表現と既習の表現を用いてペアで自分のことを詳しく伝える活動を行う。 関イ・表ア <p>↓</p> <p>3 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> 大勢の前で一人で伝える場合の聞き手や話し手の態度について考える。 新出の表現や既習の表現を使って、学級全体に自己紹介する活動を行う。 関ウ・表イ | <p>・新出の表現と既習の表現を組み合わせる児童を見本として取り上げ、より詳しく伝えるために用いる既習の表現の幅を広げられるようにする。</p> <p>・聞き手が話し手の表現内容を十分に理解できていないことに着目させ、相手意識をもって伝えたい話の内容や構成について考え、話すことができるようにする。</p> <p>・全体に一人で伝えることとペアやグループでの発表ややりとりの相違点に着目させ、ロールプレイをすることによって聞き手と話し手の態度について考えていけるようにする。</p> |

6 本時について (2/3 時間目)

(1) 本時の目標

“I’m from～.” “I live in ～.” といった新出の表現と既習の表現を組み合わせ、自分のことを友達に詳しく伝えることができる。

(2) 本時における研究の視点

本時においては、ペアで自分のことを詳しく伝える活動を見守り、既習の表現と “I live in ～.” や “I’m from ～.” といった新出の表現を用いて自分のことを詳しく伝えている児童を複数取り上げ、相違点を問うことによって、既習の表現に着目させる。自分のことを詳しく伝えるためには、既習の表現の中でも何を用いたらよいかを対話によって見いだせるようにする。

また、様々な既習の表現を用いながら自分のことを詳しく伝えることができてきたタイミングで、聞き手が話し手の内容を理解しているかどうかに着目させると、児童は不十分さを感じると思われる。聞き手が話し手の内容を理解するための対話を生み出すことにより、話し手が伝えたい内容に目を向けて、その構成(量や要旨など)について考え、相手意識という見方・考え方を高めていく姿を引き出していく。

このようにして、本時では相手意識をもち、自分のことを詳しく伝えるために既習の表現を用いるという「見方・考え方」を高めていく。

(3) 本時の展開

| 学習活動 | 主な働きかけ・手立て | 【評価】 個に応じた指導(▲) |
|---|---|--|
| <p>1 既習の表現を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出身も住所も同じだったら見分けがつかないな。 ・他にも情報があると区別できるんだけどな。 ・もっと詳しく伝えた方がいいと思う。 ・好きなものとかが言えるんじゃない？ ・ドラえもんだったらがどらやき好きで、ねずみが苦手だね。 ・I like dorayaki. や I don't like mouse. って言えるね。 | <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 出身や住んでいるところが同じキャラクターを提示し、児童が新出の表現と既習の表現を組み合わせる必要性を感じられるようにする。 <input type="checkbox"/> キャラクターの情報を詳しく伝える表現を全体で考え、既習の表現を想起できるようにする。 | <p>▲既習の表現に不安がある児童は、全員で声を合わせて発音などを確認し、自信をもって言えるようにする。</p> |
| <p>自分のことをくわしくつたえよう！</p> | | |
| <p>2 本時の課題を把握しペアで活動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I like banana. I don't like tomato. を言おうかな。 <p>3 目的に合った既習の表現について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほしいものとか、兄弟がいることも伝えられそうだね。 ・今まで習ったことをたくさん伝えられるね。 <p>4 再度ペアで活動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I live in ○○. ・ I'm from ○○. ・ My name is ○○. ・ I like banana. ・ I like red. ・ I like star. ・ I like cat. ・ I like 7. ・ I want book. ・ I don't like tomato. ・ I have brother. ・ 詳しく言えるようになってきたよ。 | <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 新出の表現と既習の表現を組み合わせ、相違点を問うことによって、既習の表現に着目させる。目的に沿うためにはどのような既習の表現を用いるとよいか対話によって見いだせるようにする。 <input type="checkbox"/> 新出の表現と様々な既習の表現を用いて伝えることを価値づける。 <input type="checkbox"/> 聞き手が話し手の内容を十分に理解していない様子に気付かせ、聞き手が理解できるようにするために、話し手の伝えている内容に着目させる。 | <p>【表ア～発言・観察】</p> |
| <p>自分のことをくわしく、かつわかりやすくつたえよう！</p> | | |
| <p>5 相手を意識した内容について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言えることをたくさん言っても相手は全部覚えられないし、終わりがわかりにくい。 ・ 自分が伝えたいことを絞って話すと聞いている人に伝わりそうだね。 | <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 詳しく伝えるために大事な内容について対話し、聞き手を意識した構成(量や要旨など)を考えられるようにする。 | |
| <p>6 ペアを複数回変えて再度活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ My name is ○○. ・ I live in ○○. ・ I'm from ○○. ・ I have brother. ・ I like banana. ・ Thank you. ・ 自分が一番伝えたいことを相手に伝えられたよ。 ・ 友達の伝えたいことが最後までよくわかった。 | <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ペアを変えて複数回自己紹介することにより様々な相手の知らなかった情報を知りたいという思いを膨らませたり、表現することに自信をもったりできるようにする。 | <p>【関イ～発言・観察・振り返りシート】</p> <p>▲表現内容が思いつかない児童には、日本語から伝えたいことを考え、一緒に考えていく。</p> |
| <p>7 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたいことを選んで話すと、相手に伝わりやすくなることがわかったよ。 | <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 本時の課題に照らし合わせてわかったことなどを振り返ることにより、コミュニケーションを図ることの良さや表現の幅の広がりなどを実感できるようにする。 | |

